

柏原市埋蔵文化財発掘調査概報

平成15(2003)年度 その2

平成17(2005)年3月

柏原市教育委員会

は し が き

柏原市は大都市・大阪から20km圏に位置し、交通も至便なところから、昭和時代の後半には住宅地として開発され人口も8万人に達しました。しかし、経済成長が鈍化し住宅開発も一段落した現在、人口は漸減するようになりました。

市政における文化財行政もこうした経済動向を反映して、これまでは埋蔵文化財を主たる対象として、拡大或いは縮小など180度異なる方向に舵取りが行われてきました。しかし、祖先の歴史的遺産であるとともに未来への展望を秘めた文化財は、これからの市政の方向として市民一人一人が地域に愛着と誇りをもつ成熟した地域社会の形成を志向する時、重要な鍵になるものと思われまます。したがって、日々失われつつある文化財の保護・活用体制が時勢に弄ばれて不安定になるようでは、これからの文化財行政として適当とは言えないでしょう。

そうした意味で、我々は安定的な文化財行政の構築を図るべく、市政に携わる多くの人々に文化財の重要性を訴え続けるとともに、多くの市民が地域の文化財を認識し、日々の暮らしを豊かで潤いのあるものとするために利用できるよう努めてまいりたいと思います。

平成17年3月

柏原市教育委員会

例 言

- 1、本書は柏原市教育委員会が平成15年度に国庫補助事業（総額1,000,000円、国補助率50%、市負担率50%）として計画し、社会教育課文化係が実施した柏原市内遺跡群緊急発掘調査概要報告書の一部である。
- 2、本書には柏原市教育委員会社会教育課 桑野一幸、石田成年を担当者として、平成16年1月から3月までの期間に実施した発掘調査6件の概要を掲載している。
- 3、この他、本書には平成16年1月1日から同年12月31日までに着手した土木工事に伴う事前発掘調査の一覧を掲載した。なおこの期間内に文化財保護法第57条の2および3に基づく届出、通知がなされたものは230件、その中で発掘調査を実施したものは24件、立会調査は21件、遺跡外の試掘調査は9件である。
- 4、本書の編集、執筆とも桑野と石田がこれにあたった。
- 5、調査、整理の参加者は次のとおりである。（順不同、敬称略）

柳谷好子 北野公一 北野重 寺川 款 分才隆司 高橋章司
横原美智子 阪口文子 乃一敏恵 橋口紀子 有江マスマ

目 次

平成15（2003）年 柏原市内遺跡群発掘調査一覧

第1章 大泉遺跡	1
2004-1次調査	2
第2章 太平寺遺跡	3
2004-1次調査	4
第3章 安堂遺跡	6
2004-1次調査	7
2004-2次調査	8
第4章 田辺遺跡	10
2004-1次調査	11
第5章 松岳山古墳群	12
2004-1次調査	13

平成16（2004）年 柏原市内遺跡群発掘調査一覧

遺跡名 対象地（柏原市・・・）	調査回数	調査面積 対象面積	申請者 用途	調査日 （日・至）	文書番号 担当者	備考
船橋	2004-1	400.00	国土交通省	H16.3.9	151-30	
古町地先		983.00	瀬と湖浄化施設	H16.12.2	石田	
山ノ井	2004-1	4.00	個人	H16.7.30	161-16	重機提供
山ノ井町756-10の一部		100.00	個人住宅	H16.7.30	桑野	
大泉	2004-1	4.50	個人	H16.2.2	161-1	
平野2-257-1/258-4		412.91	個人住宅	H16.3.24	桑野	
大泉	2004-2	1.00	八重産業	H16.8.20	161-15	
平野2-173-10/11		170.50	美術教室	H16.8.20	桑野	
太平寺	2004-1	88.50	個人	H16.3.8	161-7	重機提供
太平寺2-208の一部/他		497.83	個人住宅	H16.6.4	桑野	
太平寺	2004-2	2.25	個人	H16.8.26	161-19	
太平寺2-162-10-13		132.44	個人住宅	H16.8.26	桑野	
太平寺隆寺	2004-1	4.50	柏原市教育委員会	H16.8.2	161-14	府史跡 確認調査
太平寺2-361-1				H16.8.6	桑野	
太平寺隆寺	2004-2	2.25	個人	H16.12.17	161-31	
太平寺2-159-2の一部		84.10	憩音院	H16.12.17	桑野	
安堂	2004-1	2.25	個人	H16.1.20	161-2	
安堂町208-1/3		102.20	分譲住宅	H16.1.20	桑野	
安堂	2004-2	2.86	個人	H16.2.17	161-6	重機提供
安堂町971-8		77.11	分譲住宅	H16.2.17	桑野	
安堂庵寺	2004-1	5.25	個人	H16.12.7	161-24	
安堂町675		63.54	個人住宅	H16.12.9	桑野	
玉手山	2004-1	14.25	個人	H16.3.23	161-9	
玉手町115-201/204		1,092.22	宅地造成	H16.3.26	桑野	
玉手山	2004-2	18.00	八重住建	H16.7.27	161-11	重機提供
玉手町145-7		1,269.16	宅地造成	H16.7.27	北野	
玉手山	2004-3	7.50	個人	H16.11.5	161-17	重機提供
門町町419-1		440.88	共同住宅	H16.11.5	桑野	
玉手山	2004-4	18.00	アズマホーム	H16.12.13	161-27	重機提供
玉手町145-31		481.28	宅地造成	H16.12.13	桑野	
田辺	2004-1	3.15	個人	H16.3.4	161-5	
田辺1-2028-7/2087-8		369.31	個人住宅	H16.3.4	桑野	
田辺	2004-2	130.00	大建地所	H16.7.26	161-10	重機提供
田辺2-2080-206/他14筆		15,586.23	宅地造成	H16.7.27	桑野	
田辺	2004-3	9.00	個人	H16.10.28	161-22	重機提供
田辺1-1073-1/他		726.20	共同住宅	H16.10.28	桑野	
田辺	2004-4	84.00	大幸ホーム	H16.11.16	161-23	重機提供
田辺2-4569-3/他8筆		3,365.82	宅地造成	H16.11.16	桑野	
田辺	2004-5	4.50	竹弘鉄建	H16.11.24	161-21	重機提供
国分本町6-1442/1441-4の各一部		89.64	分譲住宅	H16.11.24	桑野	
田辺	2004-6	4.50	竹弘鉄建	H16.11.24	161-25	重機提供
国分本町6-1442/1441-4の各一部		103.48	分譲住宅	H16.11.24	桑野	
田辺	2004-7	16.00	アズマホーム	H16.12.14	161-20	重機提供
田辺2-4608-1の一部		3,493.17	宅地造成	H16.12.14	桑野	
田辺	2004-8	2.25	個人	H16.12.22	161-29	
田辺101297-1の一部		99.13	個人住宅	H16.12.22	桑野	
松店山古墳群	2004-1	1.44	個人	H16.2.4	161-3	
国分市場1-1673-1/1671-1		246.17	個人住宅	H16.2.4	石田	

（平成16年1月1日から12月31日までに実施した調査）

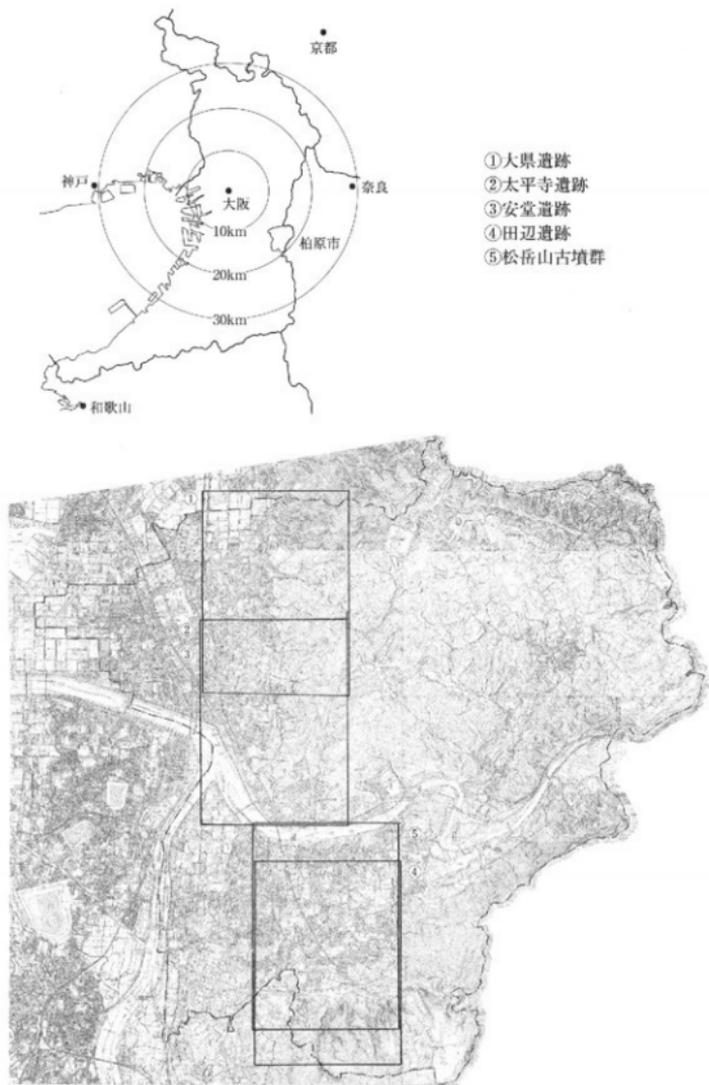


图1 柏原市位置图

2004—1次調査

- ・調査対象地 柏原市平野2丁目257-1、258-4
- ・調査期間 平成16(2004)年2月2日～2月3日
- ・調査面積 4.50㎡/412.91㎡
- ・調査担当者 桑野一幸

調査地は大泉遺跡の東端にあたり、平尾山古墳群の営まれた山地に移行する山麓扇状地最高所に位置している。大阪・奈良の府泉境にあたる生駒山地の西麓を南北に通じる東高野街道からは東に250m程離れている。なお調査地北側の道路は、「高尾山創造の森」への入り口(なかよしの道)でもある。

調査地の南東隣接地では、かつての調査で古墳時代の小型高坏(土師器)が多量に出土している。また、調査地の西側から東高野街道の間に広がる緩斜面は、弥生時代中・後期の集落の中心地として知られている。

調査区は、建物が予定される対象地の南部(A区)と中央部(B区)に設定した。大きさは各々1.5m四方である。A区では

全体に粘質土や砂質土が堆積し、B区では東部に地山(花崗岩パイラン土)、西部に粘質土・砂質土が堆積していた。粘質土には未分解の植物の根茎も見られた。遺物は1・2層から土師器や須恵器の小片が僅かに出土した。

こうした状況から、調査地の旧地形は、中央部が高く、北西部と南西部方向に低くなっており、この低地部に灌漑用の溜池等が築かれたいたものと思われる。



図3 調査区位置図

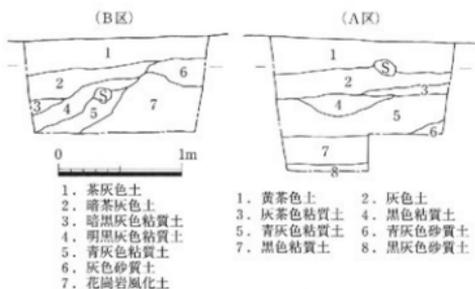


図4 A区北壁、B区北壁土層略図

第2章 太平寺遺跡

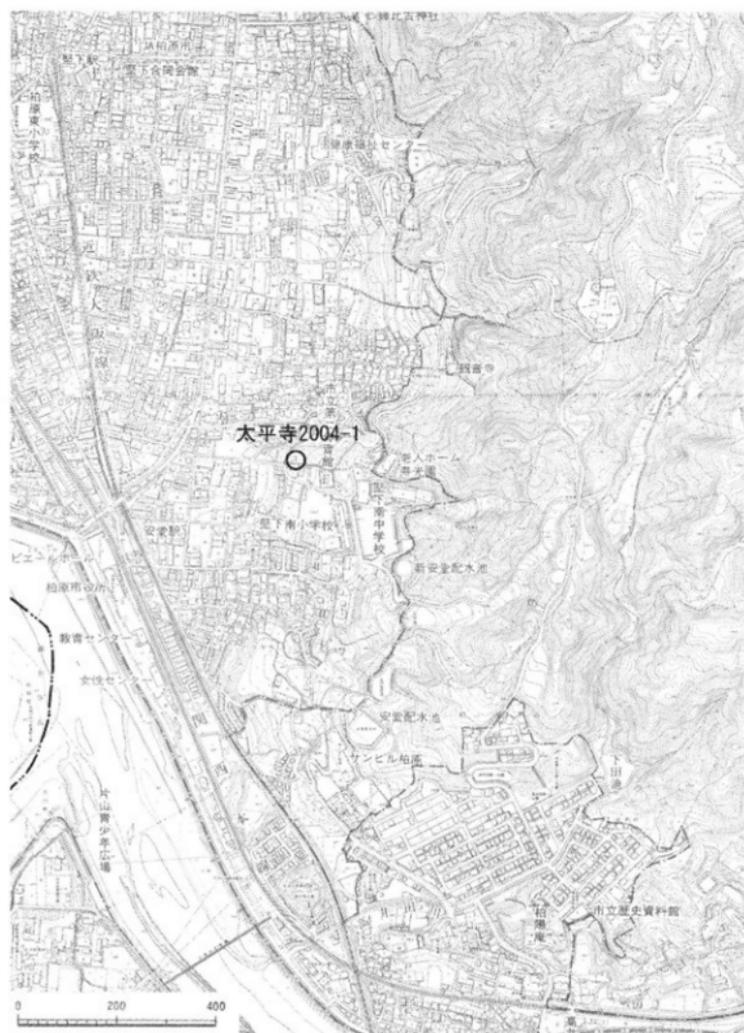


図5 調査地位置図

2004-1次調査

- ・調査対象地 柏原市太平寺2丁目208の一部、209-1の一部、209-2
- ・調査期間 平成16(2004)年3月8日～3月15日
- ・調査面積 16.50㎡/497.83㎡
- ・調査担当者 桑野一幸

本稿は調査対象地における試掘調査の概要報告である。

調査地は太平寺遺跡の南東部にあたり、標高35m前後の尾根の先端部に位置している。この尾根は、平尾山古墳群太平寺支群の営まれた東山山地(生駒山地の南端部、柏原市域)から西に派生した小さな丘陵で、これによって太平寺遺跡と南側の安堂遺跡とが、また7世紀中頃に建立された知識寺(太平寺廃寺)の寺域と家原寺(安堂廃寺)の寺域とが画されている。なお調査地の北側には、この丘陵と東山山地に抱かれるように式内社の石神社が鎮座している。

調査地周辺の調査例をみると、東側の尾根上部で、市立第2体育館建設の際に6世紀前葉の古墳跡、6世紀後葉～7世紀後葉に数度の建て替えが行われた建物群、8世紀前葉から200年程営まれた古墳群が発見されている。この古墳群の被葬者については、調査地が尾根の南斜面にあたるため家原寺の僧侶が推定されている。また南側では、南に降る斜面を埋め立てるように土砂が厚く堆積し、その中に6～8世紀代の遺物が多量に含まれていた。

さて、東西方向に長い対象地の現況は、中央部に高さ2mを超える段差があり、その西側は尾根の端部を大きく削平して住宅が建てられている。一方東側は畑地で、東辺で若干の削平に伴う段差が見られるものの、旧地形が比較的良く遺されている。こうした地形の状況から、中央の段差から西側については今回の調査対象から除外し、東側について、住宅建設に伴い削平が予定されている西半部に4ヶ所の調査区を設定した。

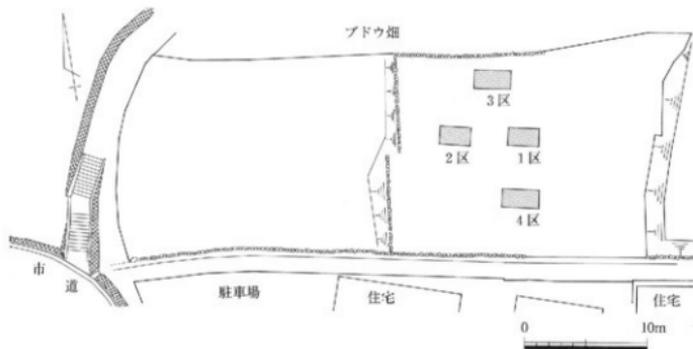
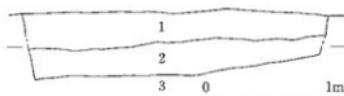
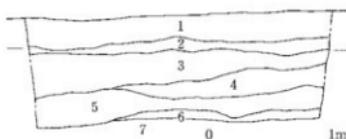


図6 調査区位置図



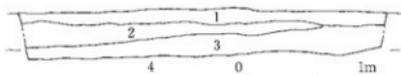
1. 表土 2. 灰黑色土 3. 地山

図7 1区北壁土層略図



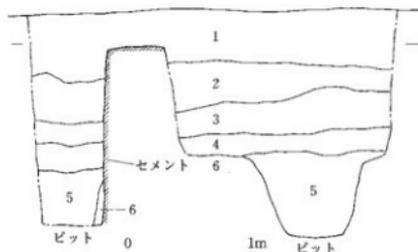
1. 表土 2. 茶灰色土 3. 黄灰色粘質土
4. 茶灰色土 5. 明茶灰色土 6. 灰黑色土
7. 地山

図8 2区北壁土層略図



1. 表土 2. 黄灰色土 3. 茶灰色土 4. 地山

図9 3区北壁土層略図



1. 表土 2. 黄灰色土 3. 黒灰色土 4. 茶灰色土
5. 灰色土 (ピットの埋土) 6. 地山

図10 4区北壁土層略図

中央に設定した1区では地山が西と南に傾斜しており、2層で土師器、須恵器片が検出された。1区西方の延長上に設定した2区では、地山は1区よりも低い位置に検出され、堆積土の下部に土師器、須恵器片が含まれていた。なお上部には地山を削平して盛ったと思われる黄色の粘土が見られた。北部に設定した3区では、地表から極めて浅い位置に地山が見出され、調査対象地全体の中でこの地区が最も高い場所であることがわかった。また遺物は全く検出されなかった。さらに調査区の東端に壁面をモルタルで塗り固めた方形の貯蔵穴（現代）が穿たれていた。南部に設定した4区では、地表下60cm以下で6～8世紀代の遺物を含む包含層が検出され、深さ1.1m程で地山が見出された。地山は

南西方向に緩やかに傾斜しており、その上面には調査区北壁に並んで2基、東壁に接して1基のピットが検出された。北壁に沿ったピットのうち東側のものは直径90cm・深さ70cm程を測る。西側のものも同規模と思われるが、3区と同様の現代の貯蔵穴で一部を破壊されており詳細は不明である。いずれも固くしまった灰色土を埋土にしており柱痕は見られなかった。東壁のピットは、その大半が調査区外にあるため大きさや形状など不明であるが、北壁沿いのものと比較するとより大きくなりそうである。

以上のように削平予定地は南西方向に降る緩斜面で、4ヶ所設定した試掘調査区のうち1区・2区・4区で遺物及び遺構が検出されたことから、3区の位置する北辺部を除く地区で本調査を実施することにした。

第3章 安堂遺跡



図11 調査地位位置図

2004—1次調査

- ・調査対象地 柏原市安堂町208-1、-3
- ・調査期間 平成16（2004）1月20日
- ・調査面積 2.25㎡/102.20㎡
- ・調査担当者 桑野一幸

調査地は安堂遺跡の南端部、大和川を西に望む標高45m程の丘陵上に位置し、安堂遺跡の平地部とはおよそ25mの比高差が見られる。調査地は3方向を道路に囲まれているが、西辺の道を北に辿ると安堂の旧集落に通じている。調査地周辺の旧地形は道路や宅地の造成等によって著しく失われてきているが、丘陵斜面を段々に造成して畑や果樹園が広がり、その間に小さな谷筋等を利用して溜池が点在していたらしい。

調査地の南東方向に位置する国民年金健康保養センター「サンヒル柏原」は、高井田遺跡における7世紀代を中心にした大きな集落の跡である。また調査地の西側からは奈良時代と鎌倉時代の建物や井戸の跡が見つかった。

調査区は対象地のはほぼ中央に設定した。予定されている建物の基礎深度を超える地表下60cmまで精査し、埴輪・須恵器・土師器の小片が僅かに出土したが、全て現代の盛土であった。

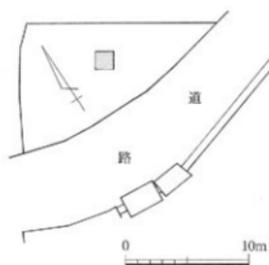


図12 調査区位置図

2004-2次調査

- ・調査対象地 柏原市安堂町971-8
- ・調査期間 平成16(2004)2月17日
- ・調査面積 2.86㎡/77.11㎡
- ・調査担当者 桑野一幸

調査地は安堂遺跡の北端に位置し、旧大和川と東山山地(生駒山地南端部)に挟まれた標高19m程の狭小な低平地である。すぐ北側には太平寺遺跡があり、奈良時代の正史である『続日本紀』に記されたいわゆる河内六寺のうち知識寺と家原寺の中間にあたる地域と考えられる。北側の市道を東に進むと、本書にも掲載した太平寺遺跡2004-1次調査地を経て東山山地に上り、平尾山古墳群の営まれた山間を抜けて奈良盆地に至る。周辺の発掘調査例をみると、調査地から南西方向の地区では弥生時代中・後期の小集落や飛鳥・奈良時代の大形建物群が発見されている。調として若狭国から運ばれた塩に付された荷札木簡なども出土しており、『続日本紀』に記された炭田宿祢弓東女の居宅および知識寺南行宮との関連が注意されている。

調査区は対象地東側の浄化槽予定地に設定した。地表下70cmまで無遺物層。4層、5層は弥生土器(Ⅲ様式)、サヌカイト剥片、須恵器、土師器、瓦器など弥生〜鎌倉時代の遺物を混在する包含層。6層は無遺物層であるが調査範囲が狭小なため確実ではない。この6層上面で6世紀後半の遺物を多数含む東西方向の溝が検出された。溝は西側がより広く、より深くなっていた。なお図15には溝から出土した土器を示した。土師器の杯、甕、移動式竈、羽釜、小型高坏、須恵器の蓋杯、甕などの破片が主な遺物である。特に小型高坏は12個体以上みられ、この溝が何らかの祭祀の意味をもつ遺構と関わりのある可能性もあろう。また、これらの遺物は、前述の飛鳥・奈良時代に推定される大形建物群より一時代古い古墳時代後半の集落の存在を示している。

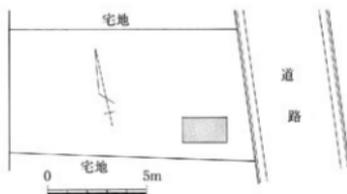


図13 調査区位置図

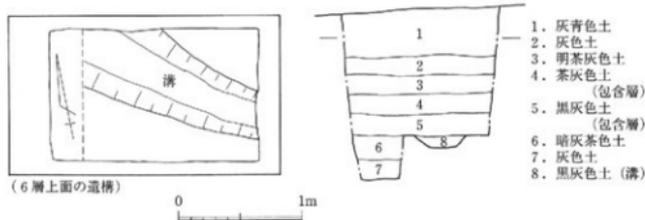


図14 調査区東壁土層・平面略図

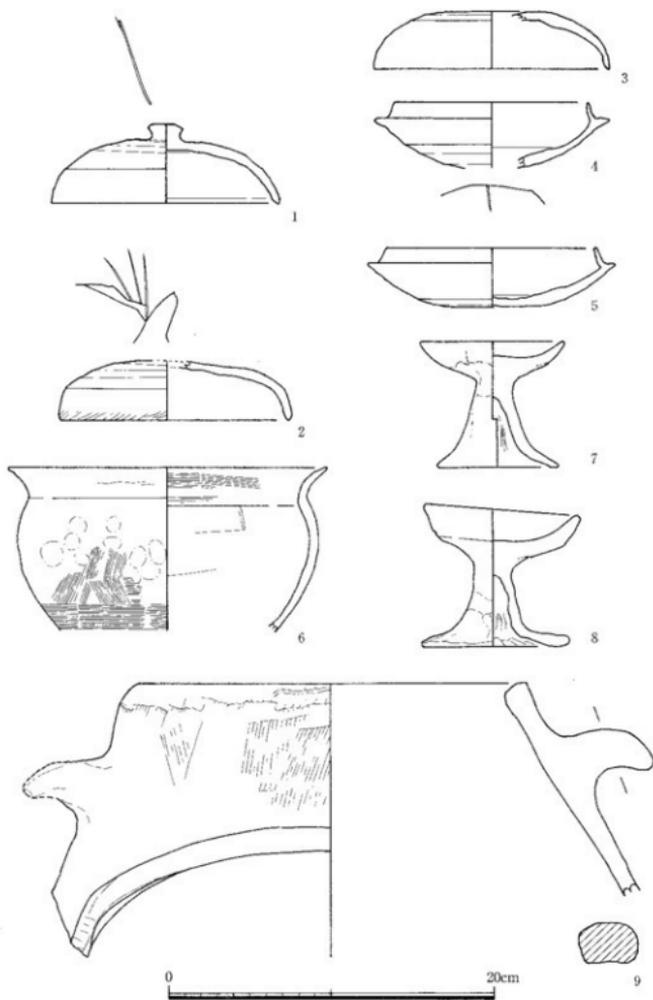


図15 溝出土の土器

第4章 田辺遺跡

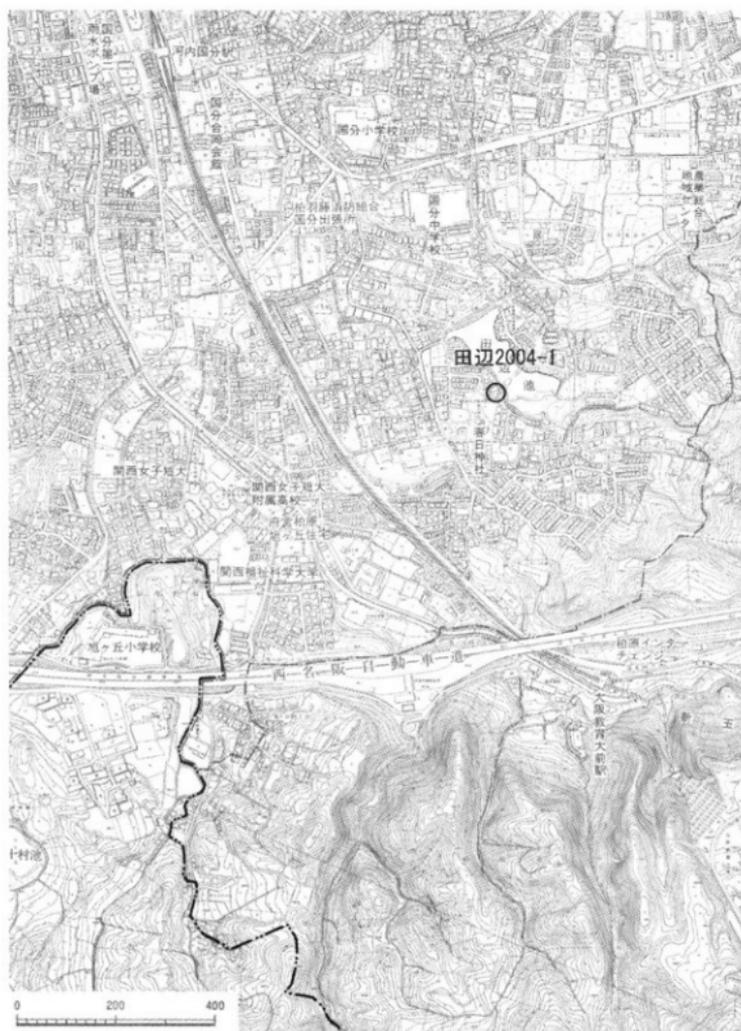


図16 調査地位置図

2004-1次調査

- ・調査対象地 柏原市田辺1-2028-7、2087-8
- ・調査期間 平成16(2004)年3月4日
- ・調査面積 3.15㎡/369.31㎡
- ・調査担当者 桑野一幸

調査地は柏原市と奈良県香芝市を画する明神山から北に派生した標高43m程の台地上にあり、田辺池の南西の辺に位置している。また、奈良時代に建立された田辺廃寺(史跡)の寺域の北東角に接する地区でもある。

田辺廃寺は渡来系氏族・田辺史の氏寺と目され、東西の2塔と南門などが確認、調査されている。調査地周辺でも幾度か発掘調査が行われ、寺域を画する何らかの施設の発見が期待されているが、現在までのところ明らかではない。

調査では、建物が予定されている対象地のほぼ中央部に2.1m×1.5mの調査区を設定し精査した。全て近・現代の盛土であり、遺物・遺構は無く、地表下30~40cmでこの地域特有の黄灰色粘上の地山が検出された。なお地山の一部に碎石が充填された浅い落ち込みが見られたが、近・現代の暗渠であろう。



図17 調査区位置図

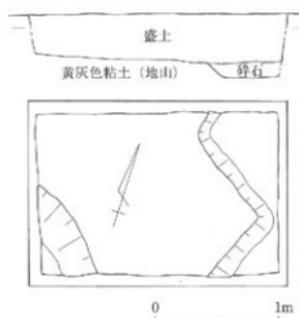


図18 調査区北壁上層・平面略図

第5章 松岳山古墳群

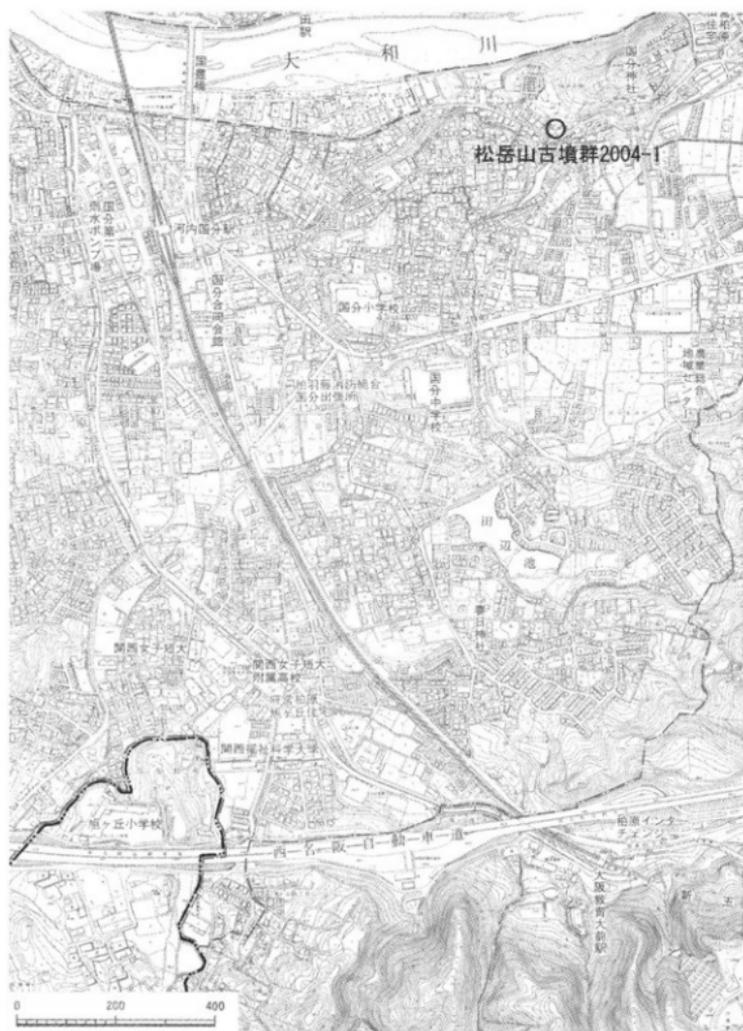


図19 調査地位置図

2004-1次調査

- ・調査対象地 柏原市国分市場 1-1673-1、1671-1
- ・調査期間 平成16年2月4日
- ・調査面積 1.44㎡/246.17㎡
- ・調査担当者 石田成年

対象地は松岳山古墳群の西方に位置する。積石塚のように安山岩の板石を積み上げて表面を覆い、竪穴式石室から三角縁神獸鏡や多量の石製腕飾類が出土した茶臼塚古墳が、対象地の北東50mに位置する。

現状は駐車場で既設建物は撤去済み。対象地の中央東寄りに一辺120cmの調査区を設定し、人力により建物基礎の掘削深度である現地表下40cmまで掘削した。表土直下はすべて盛り土であった。遺構は認められず、盛り土中から埴輪片1点が出土した。



写真1 出土埴輪片 (S=1/2)



図20 調査区位置図

圖 版



図版1 大泉遺跡2004-1次調査 A調査区(南東から)



図版2 大泉遺跡2004-1次調査 B調査区(北東から)



図版3 太平寺遺跡2004-1次調査 調査地（東から）



図版4 太平寺遺跡2004-1次調査 1調査区（南東から）



図版5 太平寺遺跡2004-1次調査 2調査区(南東から)



図版6 太平寺遺跡2004-1次調査 3調査区(南東から)



図版7 太平寺遺跡2004-1次調査 4調査区東壁土層（西から）



図版8 太平寺遺跡2004-1次調査 4調査区東部のピット（南から）



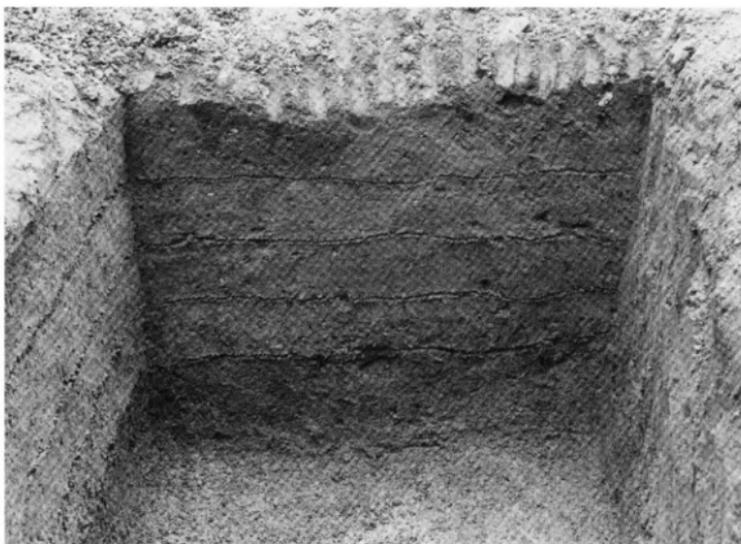
図版9 安堂遺跡2004-1次調査 調査地（東から）



図版10 安堂遺跡2004-1次調査 調査区北壁上層（南から）



図版11 安堂遺跡2004-2次調査 調査区北壁土層（南から）



図版12 安堂遺跡2004-2次調査 調査区東壁土層（西から）



図版13 田辺遺跡2004-1次調査 調査地（南西から）



図版14 田辺遺跡2004-1次調査 調査区全景（南東から）



図版15 松岳山古墳群2004-1 対象地全景（南から）



図版16 松岳山古墳群2004-1 調査区掘削状況（西から）

報告書抄録

ふりがな	かしわらしまいぞうぶんかざいはくつちょうさがいほう							
書名	柏原市埋蔵文化財発掘調査概報 平成15(2003)年度 その2							
副書名								
巻次								
シリーズ名	柏原市文化財概報							
シリーズ番号	2004-1							
編著者名	桑野一幸、石田成年							
編集機関	柏原市教育委員会							
所在地	〒582-8555 大阪府柏原市安堂町1 43 電話0729-72-1501							
発行年月日	平成17(2005)年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おおがた 大果	ひらの 平野2丁目	27221	OG 2004-1	34°36'19"	135°38'12"	H16. 2. 2 H16. 3. 24	4. 50	個人住宅
たいへいじ 太平寺	たいへいじ 太平寺2丁目	27221	TG 2004-1	34°34'44"	135°38'13"	H16. 3. 8 H16. 3. 15	16. 50	個人住宅
あんどろ 安堂	あんどろちやう 安堂町	27221	AD 2004-1	34°34'19"	135°38'13"	H16. 1. 20 H16. 1. 20	2. 25	分譲住宅
	あんどろちやう 安堂町	27221	AD 2004-2	34°34'44"	135°38'12"	H16. 2. 17 H16. 2. 17	2. 86	分譲住宅
たなべ 田辺	たなべ 田辺1丁目	27221	TB 2004-1	34°33'27"	135°38'45"	H16. 3. 4 H16. 3. 4	3. 15	個人住宅
まつおかやま 松岳山古墳群	こくふいちば 国分市場1丁目	27221	MOK 2004-1	34°33'56"	135°38'49"	H16. 2. 4 H16. 2. 4	1. 44	個人住宅
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
大果	集落	古墳-近世	なし	土師器、須恵器				
太平寺	集落	古墳-近世	ピット群	土師器、須恵器				
安堂	集落	古墳-近世	なし	土師器、須恵器				
	集落	弥生-近世	溝	弥生土器、石器、土師器、須恵器				
田辺	集落		なし	なし				
松岳山	古墳		なし	埴輪				

柏原市埋蔵文化財発掘調査概報

平成15（2003）年度 その2

発 行：柏原市教育委員会

大阪府柏原市安堂町1-43

発行日：平成17（2005）年3月31日

印 刷：中島弘文堂印刷所

